

—戦後70年、日韓基本条約50年にあたって—
**日韓の「和解」のための
歴史認識とは**

2015年**3月28**日（土）13:30～17:30（開場 13:00）

龍谷大学 アバンティ響都ホール

（京都駅八条口南側すぐ アバンティ 8F）

参加費 500 円

<第1部 基調講演 13:35～15:00>

『架橋のない2つの日韓協定
—1910年併合条約と1965年日韓協定—』

イ テ ジ ン
李 泰鎮氏（韓国・ソウル大学教授、韓国近代史）

<第2部 パネルディスカッション 15:15～17:30>

日韓の「和解」のための歴史認識とは

【パネリスト】

韓国側：**李 泰鎮**氏（ソウル大学教授、韓国近代史）

日本側：**戸塚 悦朗**氏（元龍谷大学法科大学院教授）

「歴史認識と日韓の『和解』への道
—安重根東洋平和論研究は、日本を孤立から救うか？—」

平田 厚志氏（龍谷大学名誉教授）

「朝鮮侵略と真宗僧の戦争責任」

【コーディネーター】 **重本 直利**氏（龍谷大学経営学部教授）

主催 龍谷大学社会科学研究所附属 安重根東洋平和研究センター
安重根東洋平和論研究会
立命館大学コリア研究センター

<連絡先> 龍谷大学経営学部 重本研究室 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

Tel 075-645-8630 or 8519 Email sigemoto@biz.ryukoku.ac.jp

協力：「韓国併合」100年市民ネットワーク NPO 法人丹波マンガン記念館

<開催趣旨>

2015年は、第二次世界大戦終結70周年、1965年の日韓国交正常化から50周年を迎えます。日韓国交正常化当時、人的往来はわずか年間1万人だったのが、2012年には556万人と最多記録を達成しました。この人的交流から生まれた互いの信頼関係は地域の安定と平和に貢献したことは間違いありません。しかし、今日的外交関係の悪化の影響からか2013年は520万人に減少してしまいました。日韓間の主要な懸案事項は、竹島問題、「慰安婦」問題、朝鮮半島出身者の「旧民間人徴用工」をめぐる裁判などが挙げられますが、二国間の対話は平行線を辿り、解決策の糸口が見えていません。日本国内では、コリア系住民をターゲットにしたヘイトスピーチと呼ばれる憎悪表現や嫌がらせを扇動するデモが増え、「憎悪」の感情がまかり通っています。日本のレイシズムは明らかに日本の戦後処理の不十分さに起因していると言われていました。

龍谷大学社会科学研究所附属安重根東洋平和研究センターは、「日韓未来平和交流事業の学際的研究」をテーマにし、その重要な一環として安重根の絶筆となった「東洋平和論」で描かれた「東アジア共同体」の想いを大切にし、研究活動に取り組んでいます。安重根東洋平和論研究会、立命館大学コリア研究センターと共催する今回のシンポジウムでは、そのような観点から、「戦後70年、日韓基本条約50年にあたって：日韓の『和解』のための歴史認識とは」という表題を掲げました。

皆様のご参加を切にお願いいたします。

龍谷大学社会科学研究所附属安重根東洋平和研究センター長 李 洙任 (Lee Soo im)

【講演者・パネリスト プロフィール】

■ 李 泰鎮 (イ・テジン)

【研究領域】

1960年代後半から主に朝鮮時代の社会史と政治史を研究してきた。1990年代初めから日本の大韓帝国国権奪取に関連する条約文書が格式を破ったり、批准を欠如したり、皇帝の署名を偽造したという事実を発見し、韓国併合不成立論(絶対無効論)を提起する一方、あわせて高宗時代の自力近代化の成果についても研究を進めている。韓国併合の不法性の研究の延長線上で、最近では安重根とハルビン義挙についての研究もともに進めている。

【経歴】

1977年3月～2009年2月 ソウル大学校人文大学国史学科教授
2006年8月～2008年8月 ソウル大学校人文大学学長
2002年1月～2004年12月 (韓国)歴史学会会長(理事長)
2010年9月～2013年9月 大韓民国国史編纂委員会委員長
2007年7月～現在 大韓民国学術院会員
2007年～現在 韓国歴史研究院院長

■ 戸塚 悦朗 (とつか えつろう)

元弁護士。元龍谷大学法科大学院教授。博士(国際関係学)。国際人権法の実践・研究を専攻。国連で精神障害者人権問題に取り組み、東京弁護士会人権賞を受けたほか、日本軍「慰安婦」人権問題での国際的貢献をも評価され、英国王立精神科医学会名誉フェローに選任された。韓国「併合」100年市民ネットワーク共同代表。日韓旧条約の効力問題および安重根裁判の不法性の研究を進める。主著は、『日本が知らない戦争責任』(現代人文社、2008年)、『国際人権法入門』(明石書店、2003年)、『ILOとジェンダー』(日本評論社、2006年)、『国連人権理事会』(日本評論社、2009年)。

■ 平田 厚志 (ひらた あつし)

龍谷大学名誉教授。元龍谷大学図書館長。専門は、日本近世思想史、近世・近代真宗思想史・教団史。著書としては『真宗思想史における「真俗二諦」論の展開』(龍谷叢書IX、2001年)。編著には、『朝鮮日々記を読む—真宗僧がみた秀吉の朝鮮侵略—』(法蔵館、2000年)、『浄土真宗異義相論』(法蔵館、2008年)、『西本願寺宗意惑乱一件史料』(法蔵館、2013年)など。